

Denyo



環境報告書2014
Environmental Report

デンヨー株式会社

編集にあたって

Editorial Statement

情報開示体制

持続可能な社会の実現に向けた弊社の環境面における取り組みについてステークホルダーの皆様へ下記の媒体にて情報を開示しております。

【年次環境報告書】 <http://www.denyo.co.jp>



報告対象期間

2013年度(2013年4月～2014年3月)及び一部内容についてはその前後の期間。

発行時期

2014年10月

目次

編集にあたって…p.2

製品における環境配慮…p.8

環境性能の高い製品開発

マネジメント…p.3

生産面における環境配慮…p.10

社長メッセージ

地球温暖化防止

環境基本理念

資源循環型社会の形成

環境基本方針

化学物質の管理

環境管理体制

環境目標と実績

トピックス…p.12

環境負荷の全体像

建物への環境対策の状況

生産拠点における環境対策の状況

その他

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

お問い合わせ先

デンヨー株式会社

〒103-8566 東京都中央区日本橋堀留町2-8-5

ホームページ <http://www.denyo.co.jp>

経営企画室 TEL : 03-6861-1111

FAX : 03-6861-1185



免責事項

本環境報告書には、将来についての予想及び見通しが含まれている場合がございます。これらは様々な要素の影響により、実際と異なる結果になることがあります。

マネジメント

Management



Contents

社長メッセージ	…p.4
環境基本理念	…p.4
環境基本方針	…p.4
環境管理体制	…p.5
環境目標と実績	…p.6
環境負荷の全体像	…p.7

「持続可能な
社会を目指して」

「技術で明日を築く——デンヨー」

社長メッセージ



この度は環境報告書をご覧いただきましてありがとうございます。また日ごろから弊社に関心をお寄せいただき御礼申し上げます。

さて、人類の暮らしは昔に比べ格段と豊かなものになっておりますが、その反面、資源を急速に使用し、未来の子供たちに残すべき資源がより一層減少しています。また、近年では世界中で異常気象による災害が多発するなど、環境問題がますます深刻化しております。

このような中、“技術で明日を築く——デンヨー”として何ができるのか、何をなすべきなのかを日々考え、持続可能な社会を目指して環境問題に真摯に取り組んでまいります。

2014年10月

デンヨー株式会社
代表取締役社長

古賀 繁

環境基本理念

デンヨーは、パワーソース製品の提供を通じて、社会インフラの拡充等にグローバルに貢献すると共に、企業の社会的責任として環境保全を深く認識し、環境と調和した事業活動を積極的に推進します。

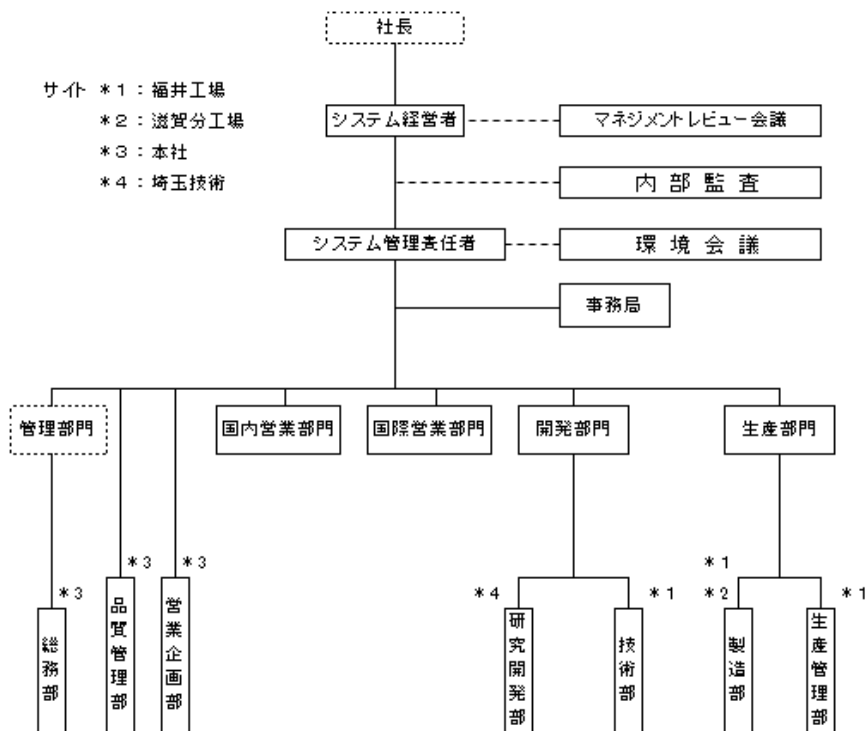
環境基本方針

1. 事業活動における、省資源・省エネルギーの推進、廃棄物の削減、臭気・騒音の低減等、健全な環境の維持向上を図ると共に、環境に配慮した製品の提供を推進し、汚染の予防に努めます。
2. 環境に関連する法規制、及び当社が同意するその他の要求事項を順守すると共に、関連する社会的要求を尊重します。
3. 環境保全に取り組むためのマネジメントシステムを構築し、その継続的な改善を図ると共に、環境目的及び目標を設定し、そのレビューを通じて環境パフォーマンスの向上に努めます。
4. 環境方針は文書化し、従業員及び当社のために働く人全員に周知すると共に、広く一般に開示します。

環境管理体制

推進体制

品質・環境マネジメントシステムの組織図



ISO14001認証取得

2006年10月19日付けで、環境マネジメントシステム(ISO14001:2004)の認証を取得しました。

省資源・省エネルギーの推進によるCO2排出量抑制、さらには事業を通じて総合的な環境負荷の低減に向けた事業活動を行ってまいります。

- 審査機関 日本検査キューエイ株式会社
- 適用規格 ISO 14001:2004/ JIS Q 14001:2004
- 登録番号 E1652
- 登録範囲 エンジン発電機、エンジン溶接機、エンジンコンプレッサ、モータコンプレッサの設計・開発、製造及び付帯サービスに係る事業活動
- 登録組織 デンヨー株式会社
- 登録範囲に含まれるその他の事業所 福井工場、滋賀分工場、埼玉開発部門 研究開発部
- 登録日 2006年10月19日(登録更新日:2013年11月7日)



福井工場



開発研修センター(埼玉)

環境マネジメントシステムの運用



環境マネジメントシステムの運用状況をISO審査登録機関の審査、及び自社による内部監査により定期的に確認しております。また、定期的な見直しを行うことにより環境マネジメントシステム運用の継続的改善に努めています。

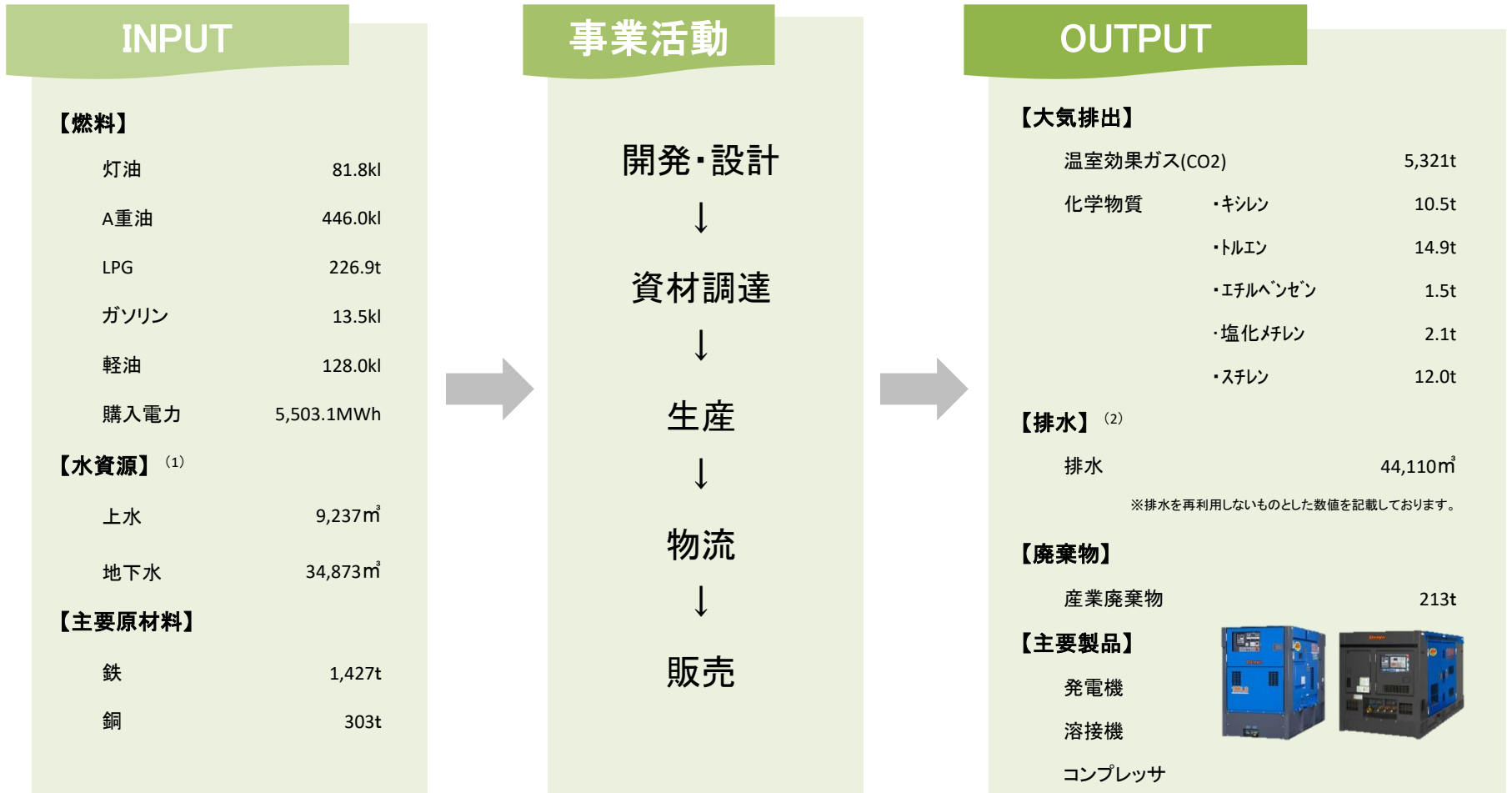
環境目標と実績

環境経営を実現するために、年度毎に目標を定めその評価を随時行っております。
2013年度の総評といたしましては全ての項目に対し、目標以上の達成となりました。

項目	2013年度の目標	2013年度の実績	2014年度の目標
環境性能の高い製品の開発	～環境に配慮した製品開発～ 「環境配慮型製品」を開発する。	エコベース、LPガス非常用発電機、排出ガス規制対応機等の開発を行った。	「環境配慮型製品」を開発する。
資源循環型社会の形成	～廃棄物の削減～ 2013年度末までに「生産高当たりの産業廃棄物の量」を2011年度比10%以上削減する。	・2011年度比排出量51.6%減 ・2011年度比生産高当たり52.3%減	2014年度末までに「生産高当たりの産業廃棄物の量」を2011年度比10%以上削減する。
	～省エネルギー～ 2013年度末までに「生産高当たりの原油換算エネルギー使用量」を2011年度比5%以上削減する。	・2011年度比使用量13.5%減 ・2011年度比生産高当たり14.6%減	2014年度末までに「生産高当たりの原油換算エネルギー使用量」を2011年度比15%以上削減する。
社会貢献活動	～グリーンクリーン作戦～ 「事業所周辺地域に隣接するグリーンベルトなどの整備、清掃活動」を1箇所以上行う。	・福井工場・滋賀分工場では、工場周囲の清掃活動と草刈を実施。 ・研究開発部では、開発研修センターを取り囲む植栽の剪定及び周辺道路の清掃活動を実施。 ・本社総務部では、本社ビル周囲の清掃活動を実施。	「事業所周辺地域に隣接するグリーンベルトなどの整備、清掃活動」を1箇所以上行う。

環境負荷の全体像

デンヨーでは事業活動の物質投入量を把握し、環境負荷低減に努めております。



注 (1)(2)の集計対象範囲は、福井工場・滋賀分工場となります。

製品における 環境配慮

Eco-Friendly Products



Contents

環境性能の高い製品開発 …p.9

エコベース発電機

エコベース溶接機

可変圧・可変容量モータコンプレッサ

「積極的な環境対応 製品の開発」

環境性能の高い製品開発

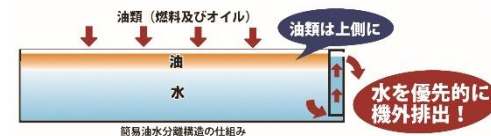
エコベース発電機

エコベース発電機は、不測の事態によりエンジンオイルなどが漏れた場合でも、本体下部のエコベースに溜めることで、外部への流出を極力抑え、周辺環境汚染のリスク低減を図ることができます。

徹底した雨水浸入防止構造により、発電機停止時の雨水の浸入をほぼゼロに抑えておりますが、万が一雨水が進入し、エコベースが満タン状態になっても、油脂類より先に水が機外へ排出される「油水分離構造」を標準装備しています。また、スイベル式オールドレンを新たに採用したことにより、従来の引き出し式オールドレンより作業性が向上いたしました。



DCA-25LSKE
*エコベース内部イメージ



スイベル式オールドレン

エコベース溶接機

不測の事態でも、油脂類を本体下部に溜め周辺環境汚染のリスク低減が図れるエコベース機について、エンジン溶接機においても拡充を図っております。発電機と同様に「油水分離構造」を標準装備していますので、雨水が浸入しエコベースが満タン状態になっても、油脂類より先に水が機外へ排出されます。また、給油の際にこぼれた燃料も一度別桶で受けてからエコベースに溜める二重構造となっておりますので、コンビナートや発電所などのプラント工事や環境保護が求められる現場でも安心してご使用いただけます。



DLW-300LSE
*エコベース内部イメージ

可変圧・可変容量モータコンプレッサ

デジタルパネルにより任意の吐出圧力と三段階の最大吐出圧力に設定できるバリアブルプレッシャーシステムを搭載しており、使用負荷・入力電源容量に応じて最適な状態で運転が可能です。

インバータにより従来のスターデルタ始動に比べて大幅に始動電流が低減したほか、内部温度上昇に応じて電動ファンの風量をコントロールし、消費電力と騒音を低減しました。

また、パーミアンロード（減圧待機制御）と自動始動/停止を組み合わせることにより、更なる省エネ運転が可能です。



MPS-22VP-2

生産面における 環境配慮

Eco-Friendly Production



Contents

地球温暖化防止	…p.11
資源循環型社会の形成	…p.11
化学物質の管理	…p.11

「環境負荷低減 に向けて」

地球温暖化防止

CO2排出削減

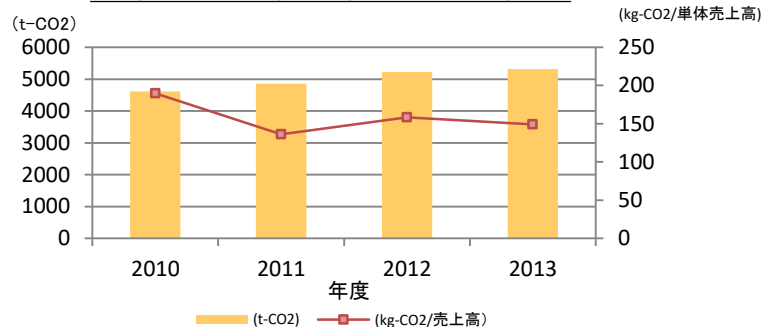
デンヨーでは、事業活動にともない排出されるCO2の削減に取り組み、地球温暖化防止に努めております。

2013年度のCO2排出量は5321tで、2011年度比9.7%増となりました。これは使用電力について各電力会社により定められているCO2排出量への換算係数が増加しているためで、CO2排出量換算前の電気使用量は2011年度比11.6%減少しております。また燃料等の使用量についても2011年度比10.9%減少いたしました。

2014年度もCO2削減に向けた取り組みを継続して実施してまいります。

	電気 使用量 (千kWh)	燃料等 使用量 (GJ)	換算後の CO2排出量 (t)	単体売上高 当たりのCO2 排出量 (kg)
2013年度	5503.1	37189.5	5321	148.9
2011年度	6224.3	41736.6	4850	135.9
2011年度比	△ 11.6%	△ 10.9%	9.7%	9.6%

CO2排出量及び単体売上高当たりのCO2排出量



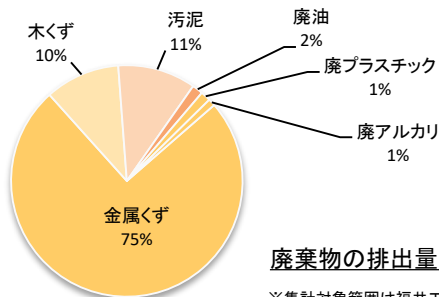
資源循環型社会の形成

廃棄物の削減

廃棄物については、関係諸法令に従い適切に管理及び処理を行っております。

2013年度の産業廃棄物の排出量は約213tで、2011年度比生産高当たり52.3%減となり削減目標を大幅に達成することができました。

また、2016年度末までに2011年度比20%以上削減するという目標に向け、引き続き取り組んでまいります。



廃棄物の排出量内訳

※集計対象範囲は福井工場及び滋賀分工場となります。

化学物質の管理

PRTR対象化学物質の管理

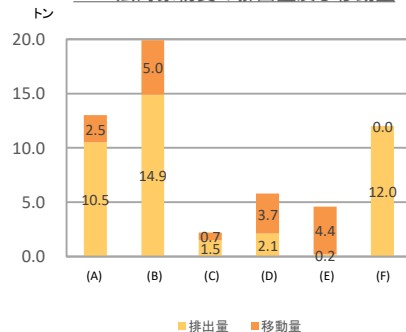
PRTR法に基づき、PRTR対象化学物質の環境への排出量、廃棄物としての移動量を把握し、集計・公表しています。

※PRTR(Pollutant Release and Transfer Register : 化学物質排出移動量届出制度)とは、有害性のある多種多様な化学物質がどのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計・公表する仕組みです。

物質名	大気への 排出量	移動量
(A) キシレン	10.5	2.5
(B) トルエン	14.9	5.0
(C) エテルベンゼン	1.5	0.7
(D) 塩化メチレン	2.1	3.7
(E) テトラヒドロ メチル無水 フタル酸	0.2	4.4
(F) スチレン	12.0	0.0

(単位:トン)

PRTR法対象物質の排出量及び移動量



トピックス

Topics



Contents

建物への環境対策の状況 ……p.13

本社屋上緑化

本社事務所

生産拠点における環境対策の状況 ……p.14

その他

福井工場 見学会

福井工場 献血活動

「明日につながる 身近な取り組み」

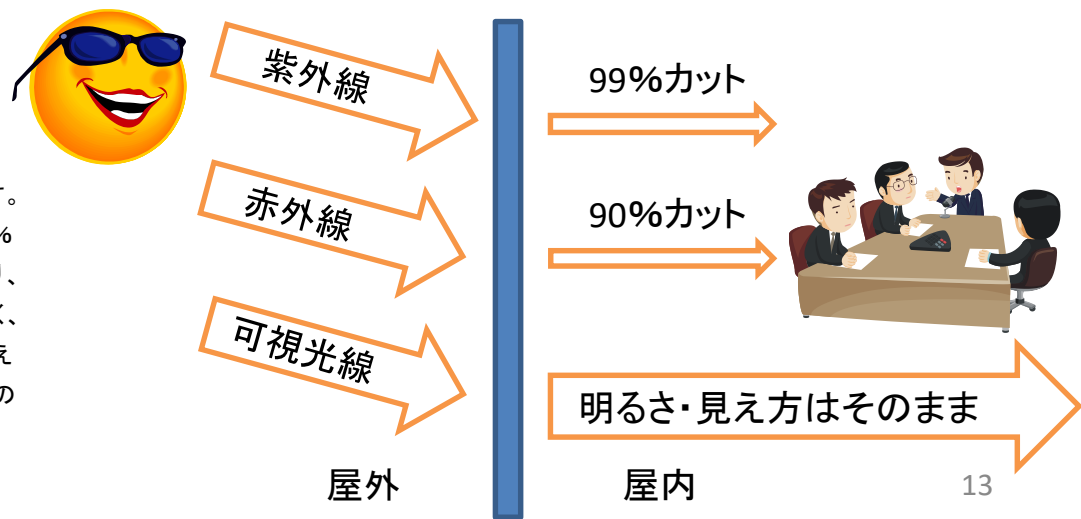


建物への環境対策の状況

■ 本社屋上緑化
デンヨーでは、環境と調和した事業活動を推進するという環境基本理念に基づき、2012年度から本社ビルの屋上緑化をしております。屋上緑化をすることで、建物の温度上昇を抑制することができます。それによりヒートアイランド現象の緩和や、冷房効率を向上させる効果があります。
本社屋上緑化面積は、植栽プランターと合わせて屋上面積の38% (40.88㎡)を占め、土壌は夏場の乾燥時にもよく耐える軽量人工土壌を使用しております。また、四季を感じ取れるよう花が咲くものを中心に、約20種類もの品種が賑わいを見せるので、福利厚生の一環にもなっております。

■ 本社事務所

本社事務所では、窓ガラスに省エネガラスコーティングを施しております。これにより、紫外線の屋内への侵入を99%カット、赤外線の影響を90%カットすることができます。有害な紫外線をカットすることで目を守り、赤外線の侵入をカットすることで夏場の空調の効きを良くするだけでなく、冬場も屋内の熱を外に逃がしにくくするのでエアコンの消費電力を抑えます。省エネガラスコーティングを施すことで、電気使用量及びCO2排出量の削減につなげております。



生産拠点における環境対策の状況

本年8月、福井工場に第8工場倉庫棟が完成いたしました。省エネのため、天井照明はLEDを使用しております。また、工場建屋の扉を全て半透明の樹脂製にしたことで、自然光を取り込むことができます。

既設の工場棟についても順次、環境に配慮した設備に更新し、LED化を進めてまいります。



その他

福井工場 見学会

福井工場では、地元住民の皆様当社をよりご理解いただき、より身近に感じていただくために、地元の小学生や高校生に向けた工場見学会や高校生のインターンシップをはじめとする様々なイベントを開催しております。

地元住民の皆様のご理解があるからこそ、操業し続けることができるということを強く認識し、今後も皆様との結びつきをさらに強くできるよう、このようなイベントを積極的に開催してまいります。



福井県内の高等学校の皆さんによる工場見学会の様子

福井工場 献血活動

福井工場では、年に2回献血活動を行っています。毎回多くの社員が参加しておりますが、その量は福井県内で一日に必要な献血量を一回の献血でまかなえるほど集まります。デンヨーは、地域社会への貢献にも力を入れております。



●技術で明日を築く ————— デンヨー®
Denyo

 **デンヨー株式会社**

本 社：〒103-8566 東京都中央区日本橋堀留町2-8-5
TEL:03(6861)1111 FAX:03(6861)1181
ホームページ：<http://www.denyo.co.jp/>